

社会教育指導者研修 第2回研修会

日時：7月31日(水)14:00~16:30

場所：県立青少年センター 多目的ホール

■ 指導者研修会助言者、長谷川先生からの助言・感想（概要）

（「助言というか、感想です」とのこと。）

○事前にこの資料を見せていただき、2つの内容（穂坂先生の講演と甲府市の事例発表）について、結果的には、次のように考えました。

『これからの公民館が担っていくべき役割、機能は、SDGsの推進センター的な機能だともいえるのではないか』。

○公民館は、地域の教育課題を解決していくわけであり、その意味で、「SDGsの推進センター的役割」をもつものといえ、地域社会の持続可能な発展のために、なにが必要なのかを住民が主体的に考え、対話を通じてよりよい地域づくりを推進していく拠点が『公民館』であると、SDGsの17の開発目標は、その具体的テーマとなるものと思いました。

○そんなふうに、この2つを結び付けて考えないと、この研修会の意味はないと考えましたが、皆さんはどうだったでしょうか？

I. 最初の穂坂先生の講演について

①用語の整理

・「SDGs」は2015年にスタート。2030年を見据えた、国連の持続可能な17の開発目標（169のターゲット）。

・「ESD」は学校現場で進められている「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」。2005年～2014年の10年間取り組まれ、継続プログラムとして2014年の国連総会で「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)」が承認され、日本でも2016年から実施計画が策定されている。

・2つとも、国際社会の潮流とつながって、地域の課題をより広い文脈においてとらえる必要があることを伝えている。

・「ESD」は今も教育の現場で継続して行われていて「SDGs」につながっており、「SDGs」では、大人も子供も個人も企業も政府も、皆で取り組むことを期待されている。

・「持続可能な」とは、「〇〇を続けることができる」こと。例えば、石油資源に依存する社会は、やがて石油資源は枯渇するので、持続可能な社会とはいえない。海の汚染は、漁業を持続させることができなくなるので、汚染を肯定する社会は、持続可能な社会ではない。

・「JICA」は、日本政府の開発途上国に対する援助を実際に行う機関（独立行政法人国際協力機構）。

②「JICA」と「SDGs」との関係について

- ・アフリカでは栄養改善が依然として課題 → SDGs(目標 2)飢餓をゼロに
- ・カンボジアでは生活習慣病や交通事故が増加 → (目標 3)すべての人に健康と福祉を
- ・バングラデシュですべての人に教育を → (目標 4)質の高い教育をみんなに
- ・ザンビアで雇用の機会を促進し経済成長を助ける → (目標 8)働きがいも経済成長も
- ・17の課題の達成に関わり、こうした取り組みを小学生に伝えておられる。
- ・私たちは、2030年、約10年後には、どんな社会になっていて欲しいか？

③須玉小と長坂小の教育実践について

- ・取り組みに大変感動した。自分たちにできることはなんだろうと、学習を通して、また、行動することで、地域に対する愛着や誇り、いわゆる帰属意識を持たせることが大切と感じた。
- ・学習の結果、「うちの地域はなんにもしてない」とか、「誇れるものはなにもない」など、ネガティブな思考にならないようにしてあげたい(地域学習のポイントの一つではないか)。
- ・SDGsとの関連付けが必要であり、身の回りの生活で、行動が、SDGsの何番の目標と関わっているのか、意識し、関連付けていくことが必要。
- ・先の須玉小、長坂小では、地域社会の持続可能な発展のために、何が必要なのか、何をしなければならないのかという芽が育っていると感じた。
- ・なお、今度の新しい学習指導要領では、「持続可能な社会の創り手の育成」という言葉が大きな柱となった。

④「世界がもし100人の村だったら」のワークショップの取り組み(山梨 YMCA)などが大変参考になる。あなたと違う人を受け入れる「相互理解」がテーマ。
SDGsの掲げる2030年(約10年後)には、どんな社会になっていてほしいか？ 皆で考えたい。

○地球の問題を考えるときには、手のひらに乗せて考えることをお勧めしたい。いろんな角度から世界を眺め、課題を考えたい。そして、身近なところから考え、アクションを起こしていくことの大切さを今日の講演で教えられた。

○『 私たちは、まず、身近な課題に無関心であってはならない 』 と思った。

II. 甲府の公民館の事例発表について

①お話を聞いて、まさに、公民館は、仲間同士、地域住民が「集う場」、「学ぶための場」、「結ぶ場(ネットワークを形成する場)」であり、「人づくり社会づくりに貢献し社会教育を推進する拠点施設」ということを改めて感じた。

②館長さんと指導員さんのお話を聞いて、公民館の運営の在り方(3つの原則)を考えた。

- i 公民館には、地域の学習拠点としての「地域性」がある。
- ii 公民館には、館長、社会教育指導員等すべての活動に、社会教育的観点に基づいた専門的配置がされている。「教育専門性」。
- iii 公民館には、年齢、性別、職業等を問わず、すべての人に開かれた場所としての「公共性」がある。

③甲府の公民館の特色

- ・風林火山の名のもと、甲府生涯学習ビジョンが作成され、9つの直営の公民館があり、社会教育指導員の実務が位置付けられており、社会教育指導員会が毎月開催され、問題点や相談を話し合っている。
- ・甲府開府500年の歴史講座が開催されている。
- ・甲府は市立図書館が1つしかないが、公民館に公民館図書室がある。

④社会が急速に変化していく中で、公民館の果たすべき役割はどうか。

- ・公民館では、民間では提供されにくい講座の開催が必要ではないか(地域防災等)。
- ・地域において、支援を必要としている人への取り組みが必要ではないか(在留外国人への日本語講座等)。
- ・高校生をはじめ、これまでターゲットからはずれていた若者層を主人公にした働きかけが必要ではないか。

○これからの公民館が担っていくべき役割は、身近な地域からSDGsの目標に迫るべきであり、SDGsの推進センター的な機能が大事である。

結びに、

○是非、公民館関係者の皆様方には、これまで公民館の培ってきた地域との関係を生かし、地域の実態に応じた学習と活動を結び付け、地域づくりへとつなげる、新しい地域の拠点施設をめざして欲しいと思っている。

■ その他（参考）

□ 前回「提言書」について（ESD と SDGs）

〇県への「提言書」の中でも、ESDとSDGsについて、触れられています(抜粋)。

日本ユネスコ国内委員会教育小委員会は、ESDとSDGsの関係について、次のように説明しています。

【「今日よりいいアースへの学び 持続可能な開発のための教育(ESD)の更なる推進に向けて - 学校等でESDを実践されている皆様へ」より】

- ①SDGs は、これまで ESD で取り組んできた課題、あるいは今後向き合うべき喫緊の課題やテーマを具体的に掲げ、その解決に向けた方向性を明確に示したものととらえられます。
- ②全く新しいことを始めなくても、ESD に引き続き取り組み、より一層推進することが、SDGs の達成に直接・間接に貢献するものです。
- ③その上で、SDGs が掲げる 17 の目標(課題)をこれまでの取り組みにいかに取り入れ、その達成に向けて、今後の ESD の推進をいかに充実させていくか、ということにも、是非取り組んでほしいです。
- ④その具体的なアプローチは、その学校・地域の課題や ESD の取り組み方により様々であり、「SDGs 自体について学ぶこと、SDGs の 17 の目標全てを意識して取り組みを行うこと」や、学校や地域特有の課題に特化した ESD の取組について、「SDGs のどの目標につながり、どのように貢献できるのか」という観点から関わりを考え、地域における特定の目標の達成に貢献しようとする」とも意義があります。
- ⑤学校や地域が連携・協働して ESD に取り組むことで、総体として SDGs の 17 の目標の達成に貢献することにつながります。

◎事例(4つの学習・取組)

①SDGs についての学習

本の読み聞かせを通して、私たちの日常生活と地球規模の課題がつながっていることを考察するなど。

②SDGs 全体への貢献を意識した取組

学校全体で行っている種々の ESD の取り組みを SDGs の 17 のゴールに当てはめた「SDGs 実践計画」を作成し、また、それを ESD カレンダーと連携させることで、各学年での種々の取組がどのように SDGs のゴールに関係するものであるかを視覚化、明確化する。

③特定の SDGs の課題に貢献する取組

学校の特色と地域の課題を連携させる。園芸の専門高校とこども園との連携・協力を通じ、子どもたちが、地域の園芸や農業に関心を持つことで、地域文化や歴史にも関心をもってもらうことを意図する等。

一つの分野に焦点をあてた取組も、SDGs の目標に照らし合わせてみると、複数の観点から SDGs の達成に貢献しうる。

④特定の SDGs を意識した取組

「防災」「自然環境」「ふるさと」「人権」の 4 領域で、「学校と地域をつなぐ ESD 活動」を展開する等。

○地域の課題に根ざした ESD の取組が SDGs のどの分野に貢献するかを意識しながら活動することが大切です。

□ 前回の第1回社会教育指導者研修(6月26日)について

○第1回社会教育指導者研修(6/26[水])では、

・経済的な効率性や合理性とは離れて、複雑化多様化するわたしたちの「実際の生活」と、地域課題に具体的に対応するために、改めて、社会教育の意義を確認し、それらを更新させながら、実践的に提示することが必要。(鈴木先生)

・2030年までの間に、世界中の全ての人々が、「持続可能な開発のための17の開発目標(SDGs)」の達成に向けて努力することが期待されています。(別宮先生)

・学校においては、既に ESD として取り組まれています。子どもたちは、地域(自分の生活)と世界がつながっていることを認識し、SDGsの達成に向けて努力(学習し行動)しています。(冨永先生)

・今後、ESD と、車の両輪のように、地域社会で、大人達が、既に、地域の伝統やしきたり、生活のルールやマナーとして常日頃より行っている細やかな活動について、SDGsにあてはめて「見える化」を図り、「誰もが取り組みやすくするための仕掛け」として発信していきましょう。

・地域の子どもの模範となるよう、大人も日常生活の改善として取り組み、前進させていく必要があります。(冨永先生)

といったメッセージをいただきました。

□ 今回の第2回社会教育指導者研修(7月31日)について

○今回(7/31[水])の研修では、

・JICAの穂坂様から、国際協力のお話やSDGsを通じた様々な取り組みについて、また、未来に向け人類共通の課題解決に取り組む日頃の御活動について丁寧に伝えていただきました。

・甲府市南西公民館の清水館長さんと三枝社会教育指導員さんからは、南西公民館の運営と実践について、甲府圏域の更なる発展を牽引すべく、まちづくりに取り組まれている様子をお話いただきました。